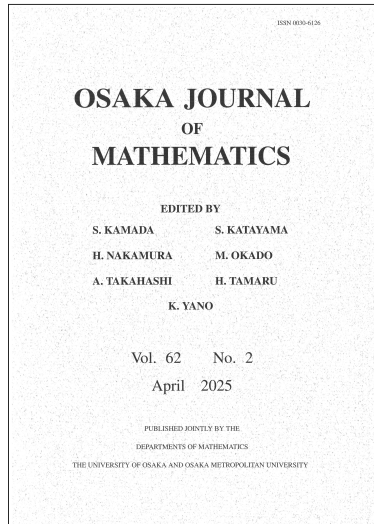


数学ジャーナルだより

Osaka Journal of Mathematics



大阪大学大学院理学研究科
片山 聡一郎

Osaka Journal of Mathematics (以下, OJM) は数学の広範な分野の論文を掲載する学術的専門誌です. 大阪大学大学院理学研究科数学専攻と大阪公立大学大学院理学研究科数学専攻の共同編集で, 年に4号刊行しています. 大阪大学大学院基礎工学研究科数理教室と同大学院情報科学研究科情報基礎数学専攻にも刊行に際してご協力をいただいています. 『数学通信』編集部より

貴重な機会を与えていただきましたので, 2025年時点での編集委員長である片山がOJM紹介の記事を書かせていただきます. 手持ちの資料に基づき記載させていただきますが, なにしろ私が生まれる前から刊行されている歴史のあるジャーナルのため, 特に歴史等の認識に誤りがある可能性は多々あると思われます. その点については何卒ご容赦いただければ幸いです.

OJMは大阪大学理学部数学教室が発行していた「Osaka Mathematical Journal」と大阪市立大学理学部数学教室(当時)が発行していた「Journal of Mathematics, Osaka City University」が合併する形で1964年に創刊されました. 大阪大学と大阪市立大学という異なる2つの組織が共同編集する雑誌の刊行ということで, 責任の所在や予算の分担など決めるべきことが多く, 創刊にあたっては当時の両大学の関係する教職員の皆さんの並々ならぬ努力があったようです. 創刊当時は年2号の刊行で, 1971年(8巻)からの年3号刊行を経て, 1982年(19巻)より現状と同じ年4号の刊行となりました. 大阪市立大学と大阪府立大学の統合を経て, 現在は上述の通り大阪大学と大阪公立大学の共同編集となっています.

2025年の時点ではOJMは冊子体および電子版の双方を刊行しています. 冊子体の販売については丸善雄松堂にお願いしています. 電子版は2006年(43巻)からProject Euclid上で公開しています. 現時点では過去の巻もすべて電子化され, 全ての論文がオープンアクセスとなっています(前身のOsaka Mathematical JournalとJournal of Mathematics, Osaka City Universityも電子化されています). また, 電子版は大阪大学学術情報庫(The University of Osaka Institutional Knowledge Archive)においても公

開されています。多くのジャーナルと同様に、OJM の冊子体は国内外のジャーナルとの交換にも用いられています。ジャーナルの交換は、かつては研究に関わる情報収集に重要な役割を果たす制度であり、OJM 創刊の動機のひとつでもあったようですが、昨今は国内外のジャーナルから冊子体の発行中止とそれに伴う交換中止の連絡を多数いただいております。時代の流れとはいえ一抹の寂しさを感じています。個人的には紙の本と、それらが並んだ図書室の雰囲気がとても好きなのですが、諸経費の高騰などもあり、冊子体の発行を続けるかどうかは今後、慎重に検討していく必要があると思っています。

編集体制についてですが、現在は専門が異なる 7 名の委員が編集委員として編集作業を行っており、そのうちの 1 名が編集委員長として委員会の招集等を行っています。最初に述べたように 2 つの大学の共同編集であるため、現在の委員は大阪大学より 5 名、大阪公立大学から 2 名が選ばれています。編集委員の任期は 5 年と定められているのですが、再任が許されているため、実際には 5 年を超えて編集委員を続けることが多いようです（なお、5 年任期を定めた規定に「委員長はこの限りにあらず」と書かれており、どのタイミングで身を引けばよいのかが、目下の私の悩み事のひとつです）。もちろん数学の幅広い分野すべてを 7 名の委員のみでカバーするのは難しいので、大阪大学および大阪公立大学の多数の数学教員の方々にも co-editor としてご協力いただいております（2025 年 6 月時点で 29 名の co-editor がいます）。数年前からは大阪大学の数学専攻内に出版委員会が設立され、かつては編集委員が行っていた最終原稿のスタイルの統一や著者校正前の確認などの業務を担当しています。また、OJM の事務担当の職員が 1 名いて、投稿の受付、著者や査読者とのやり取り、印刷所や出版社とのやり取りなどの面倒な業務を一手に引き受けてもらっています。

ここで OJM における論文の投稿から最終判断までの流れを簡単に紹介したいと思います。OJM に投稿されてきた論文は、まず編集委員長が目を通し（自分自身を含む）editor に担当を割り当てます。また、明らかに数学の論文ではないなどの理由で投稿論文が OJM に適していないと判断した場合には、この時点で著者に返却することもあります。論文を割り当てられた担当 editor は査読に回すかどうかを判断し、査読に回す場合は査読者の選定も行います。この時点で論文を返却するかどうかは担当 editor の判断に任せています。なお、editor に専門が近い人が見当たらない場合には、委員長預かりとして専門が近い co-editor の方に内容についてのご意見を伺ったり、査読者などについて相談することもあります。必要に応じて何度か著者への修正依頼、再査読等を経て、査読者から掲載可否についてのご意見をいただいたら、最終的な掲載の可否は年に 4 回開かれる編集委員会での審議を経て決定されます。OJM では特に期限を設けずに査読依頼を行っていますが、査読依頼後は一定期間ごとに状況の問い合わせはするようにしています。査読依頼を行うと多くの場合、快くお引き受けいただくか、何らかの理由でお引き受けいただけない場合も代わりの査読者を推薦していただいております。査読者の方には貴重な時間を割いてご協力いただいております、これまでに OJM への投稿論文の査読をしていただ

いた方々、および今後お引き受けいただく方々にこの場を借りて編集委員長として感謝を申し上げたいと思います。

バックログについては、アメリカ数学会の Backlog report に提供しているデータを参考のために転記しますと、2024 年は Submission to Final Acceptance が 6.8 ヶ月、Acceptance to Print が 12.3 ヶ月、Acceptance to Electronic Posting が 11.8 ヶ月となっています (いずれも中央値)。年度ごとに若干の変動はありますが、Submission to Final Acceptance の中央値は概ね 7 ヶ月前後となっています。

ここで、OJM に論文を投稿される方へのお願いをいくつか書かせていただきます。査読者からの指摘に応じて著者に修正依頼をした場合に返事が長期間戻ってこない場合があります。この場合は、一定期間ごとに何度か催促をして、それでも返事がなければ最終的には投稿の取り下げをお願いすることになります。何らかの理由で修正に時間がかかることもあると思いますが、その場合には必要な期間の見込みなどをお知らせいただければ助かります。もう一点は投稿前に投稿規定を確認していただきたいという点です。投稿規定に AMS の 2020 Mathematics Subject Classification (MSC) を記載する旨書いてあるにも関わらず、記載のない論文が投稿されてくることがあります。上記のように投稿論文はまず編集委員長が目を通すのですが、こういう論文に限って現編集委員長の私の知識では、どの分野の論文なのか判別に困る内容であることが多く、適切な編集委員への割り当てに時間を要することがあります。記載があっても、素人目に見て内容と合致しない番号で判断に困ることもあります。投稿規定通りに適切な MSC を記載してもらえれば査読に入るまでの無駄な時間を減らせるので、投稿の際には是非ご留意いただきたいと思います。

また、やり取りを繰り返しているうちに査読者の方と音信不通になることも稀にあります。貴重な時間を割いていただいている立場上、このようなことを申し上げるのは心苦しいのですが、査読者からの連絡が途絶えますと編集委員会のみならず著者にも迷惑がかかります。様々な状況の変化で査読を続けるのが難しくなることはあると思いますが、その際には早めにお知らせいただければ査読者の交代等を検討できますので是非ご連絡いただきたいと思います。上で述べたように著者や査読者との連絡は OJM の事務担当職員が一人で行っていますので、負担軽減のためにもご協力をお願いしたく存じます。

最後に OJM への積極的な論文投稿をお願いして本稿を終えたいと思います。OJM は投稿料が不要で、掲載される論文はすべて追加料金なしでオープンアクセスになります。掲載決定までの期間も標準的なものだと思います。皆様の貴重な研究成果の投稿先の候補として是非 OJM をご検討いただくとともに、周辺の方にも投稿をお勧めいただければ幸いです。